

# 令和元年度卒業論文・修士論文題目 (氏名 論文題目)

## 【卒業論文】

〔灰谷ゼミ〕 日本語学

安保 麻実 談話における言いさし表現の意味機能と用法についての研究

重松 英里南 愛媛県伯方島方言アクセントの動態についての研究

中村 香花 長崎県南島原市有家町方言における尊敬表現「ス・ラス」の敬意度についての研究

永松 優花 テレビCMの言語的特徴についての研究

西川 珠末 友人関係における断り表現についての研究

〔岸本ゼミ〕 中古文学

岡野 珠緒 『大斎院前の御集』と選子内親王のイメージ形成

小笠原 翼 『詞花集』と『続詞花集』の関係―道済の入集歌を通じて―

廣川 弥生 唐草装飾本『小町集』の研究―『古今集』との関係に注目して―

広瀬 香菜

『枕草子』における章段内容の変化―中関白家と「めでたし」に着目して―

横山 リサ 『とりかへばや物語』における「吉野」―先行作品の摂取と離脱に注目して―

〔藤川ゼミ〕 中世文学

尼崎 ころろ 歌人 九条隆博の研究

財津 奈々 頓阿の和歌研究

〔藤沢ゼミ〕 近世文学

石川 いさ 『都々逸 恋の美南本』考

岡本 未来 昔話の後日譚を描いた黄表紙―元作品との比較を中心に―

加藤 景子 翻刻『復讐奇話 絵本東嫩錦』

加藤 未宙 近世文学における「化け物屋敷」の様相

佐野 佳那実 上方の子ども向け絵本考―『桃太郎』

新村 万由佳 『今昔雀実記』『今様嘶猿蟹合戦』―

蘭山読本の研究―『報讐／奇話』那智の白糸』と『北斗鏡／飛龍剣』奇譚手引の糸』の考察―

三好 花純 『飾磨楳布染』の研究―翻刻と作品評

価―

〔柴ゼミ〕〔近現代文学〕〔創作〕

平岡 真澄 オブリーク・ライト(創作)

秋山 莉久 大手拓次『藍色の墓』におけるオノマ  
トベの表現効果について

荒木 鈴菜 夏目漱石『こころ』論―疑似家族の悲  
劇―

伊藤 美月 女性アイドル論―「卒業」という現象  
をめぐる―

戎 ひなた 映画『言の葉の庭』における雨の役  
割

志茂 あおい 長野まゆみ『夏至南風』論―植物への  
憧れ―

多田 琴音 『エリザベート』に見る宝塚の娘役の  
特徴―宝塚・東宝の比較を通して―

田中 比奈美 ゾンビと生者の表象について―『ゾン  
ビランドサガ』を中心に―

鶴見 仁 ロックミュージックにおける日本語  
―はっぴいえんどを対象に―

森川 泰樹 有川浩『キャロリング』における小説  
から脚本へのアダプテーション―受容  
形態の違いをめぐる―

〔原ゼミ〕〔近現代文学〕

青木 風悟 井伏鱒二「しびれ池のカモ」論―「下  
リトル先生航海記」との関連―

青山 しの 織田作之助『続夫婦善哉』論―蝶子と  
柳吉の人格イメージ―

清杉 茉緒 伊藤整『街と村』論―外国文学との関  
連―

〔信木ゼミ〕〔国語教育〕

山近 拓真 国語科におけるアクティブ・ラーニン  
グの実現―主体的・対話的で深い学び  
の実現―

〔藤井ゼミ〕〔民俗学〕〔伝承文学〕

荒木 遼加 岡山県真庭市湯原のはんざき大明神伝  
説

大野 華代 鳥取県西伯郡大山町「赤松池伝説」の  
研究―伝承経路と山椒について―

里中 啓太 三重県波切のだんたらぼっち伝承に関  
する研究―わらじ祭りとともに考える  
巨人―

田中 海渡 大分県臼杵市における真名野長者伝説

鶴亀 奈月 島根県雲南市の神楽報告

西原 由利子 山口県湯田の開湯伝承研究―温泉発見  
における鳥獣の役割を中心に―

野口百香  
水田陽菜

徳島県の首切れ馬伝承

兵庫県佐用郡佐用町の安倍晴明塚・芦

屋道満塚研究

〔鷹橋ゼミ〕 中国文学

井原 真美

花札について

〔光原ゼミ〕 創作

飯田 菜都紀

黒歴史のほうがマシだった

関藤 暁生

妖魔の町

谷口 萌花

たいした話はしません！

藤村 ふゆか

神よ、悪魔を護り給え

本岡 佳奈

お前の色は、何色だ？

森田 彩音

ふたり

森山 美琴

自由なやつら

横尾 嘉之

有線上の会話

【修士論文】

鈴木 真穂

〈人をだます〉語に関する語彙研究―

「タバカル」「アザムク」「ダマス」

を中心に―

関 丹亮

限定のとりたて助詞と対象に対する評

価についての研究